

NGO 相談員出張サービス実施報告書

1. 企画名：JICA 推進員との連絡会議
イベント種類：その他
2. 実施者：
 - ①大豊 盛重／（公社）日本国際民間協力会（NICCO）
 - ②古寺 瑞代／（特活）関西 NGO 協議会
 - ③中西 美樹／（公財）PHD 協会
3. 日時：
 - ①平成 28 年 8 月 3 日（水） 15 時 45 分～17 時
4. 場所：
JICA 関西
（〒651-0073 兵庫県神戸市 中央区脇浜海岸通 1 丁目 5-2）
5. 参加者：
 - ①NGO 相談員 3 名、JICA 9 名

6. 実施報告：

<内容>

近畿ブロック NGO 相談員 3 団体と JICA 関西国際協力推進員間での連携を深め相談員活動を推進するための会議として、関西地区で、これまで継承されてきた協働事業促進の事例をもとに相談員制度の利用法を紹介したほか、各地域の新しい推進員との顔合わせや事業計画情報の共有など更なる連携、協働に向けた協議を行った。

NGO 相談員側から JICA 国際協力推進員へ出張サービスの依頼方法や依頼の時期について説明したほか、各地域での連携できるイベントの有無について検討してもらえよう依頼した。また、検討する際に個別に相談を受け付けられることも申し伝えた。

<所感>

JICA 国際協力推進員との協議では、NICCO が拠点を置く京都、近隣の滋賀県、奈良県では、既存のイベントを通じて連携、協力体制が取れていることを確認できた。

しかしながら、①国際協力推進員も国際理解教育のための講師派遣業務を行っているため依頼内容によっては、NGO 相談員への講師派遣の依頼を回す必要がないとの意見もあった。②和歌山県については国際協力のための活動を行う団体が少なく、連携の必要があるニーズが少ないとの意見もあった。国際協力への関心の地域差があることが分かった。

- ① については、N G O相談員が相談に対応できる内容を明確に示し、市民からの依頼の窓口がJ I C Aであっても、N G O相談員にリファー出来るような関係を作る。また、逆方向も整備する。そのためにはお互いの得意分野を共有する必要がある。特に1年ごとに変わるN G O相談員制度ではN G O側は、具体的に年度初めに明示するべきであると感じた。
- ② については、N I C C Oが京都で連携が取れているのは、既存のイベントがあるからであり、加えて京都にある団体が相談員を受託したからである。既存の定期的なイベントがまだない地域では、共通の目的が持てるイベントなどを立ち上げることが出来ると、国際協力の啓発についてJ I C Aと市民社会との相乗効果で活性化されると考えられる。新たに共通の目的のイベントを立ち上げるためには、N G O側、J I C A側にも大きなエネルギーと時間が必要になるが、相談員制度の受託期間が1年間しかなく、相談員が率先して調整しても継続的な活動につなげるのは、難しいと考えられる。現状では、既存のイベント情報を共有してもらえようように依頼し、市民への接点をより多く持つことが協力体制の構築につながると考えられる。

以上の通り、今後は国際協力推進員と連携を取って行くことを検討している。

7. 別添（写真）



写真 1 出張サービスの制度説明をする
大豊（N I C C O）、中西（P H D協会）

写真 2 制度の説明を聞くJ I C A国際
協力推進員

撮影：古寺（関西N G O協議会）

以上

NGO 相談員出張サービス実施報告書

1. 企画名：講演会 中高生向け国際協力講座「ユースプログラム」
2. 実施者：特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン
3. 日時：2016 年 8 月 4 日（木）10:00-16:00
4. 場所：特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン事務所（東京都中野区本町）
5. 参加者：中学生、高校生合計 25 名
6. 実施報告：

NGO 相談員として、中高生を対象に開発途上国の様々な問題をテーマに、途上国の子どもたちの置かれている現状について理解を深めてもらった。具体的には、まずレクチャーによって開発途上国における保健・栄養課題についての現状や子どもの置かれている状況、NGO 活動について紹介した。引き続いて「世界がもし 100 人の村だったら」のワークショップや「富の分配（バスケットを使った不平等の表現）」、途上国で使用されている道具などで疑似体験をすることによって、参加者自身が主体的に考え理解を深める機会とした。

また、ポスターやチラシを準備した NGO 相談員のコーナーを設け、昼食時や休憩時間、イベントの前後などに国際協力や NGO 活動などについての質問などに対応した。中学生から文化祭で国際協力について発表するための資料がほしいとの相談や、将来国際協力の分野に就職を希望する高校生から、大学ではどのような学部で勉強したか等について質問が寄せられた。

7. 所感：

保健・栄養に関心を寄せる中高生が多く、25 名の申込みに対して 100%の出席率となった。また、これまでの中高生向け国際協力講座ユースプログラムから継続参加の中高生も多く嬉しく思った。学んだことを文化祭で伝えるという中学生もあり、今後も関心を持って個人や学校で国際協力に参加していく展開につながることを期待したい。

8. 別添（写真）



NGO 相談員について紹介



「世界がもし 100 人の村だったら」



アフリカの生活道具で体験

NGO 相談員出張サービス実施報告書

1. 企画名：講演会「きみもグローバルキッズになろう！」
2. 実施者：特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン
3. 日時：平成 28 年 8 月 18 日（木）、19 日（金）10:30-15:00
4. 場所：ハーモニーホール（東京都中野区本町 1-32-2 ハーモニータワー 2 階）
5. 参加者：2 日間合計、小学 3～6 年生 84 名、保護者 37 名
6. 実施報告：

NGO相談員として、小学3～6年生対象に（18日と19日は異なる小学生が参加）途上国の子どもたちを取り巻く課題を写真やケースストーリーで紹介し、参加者が主体的に学びを深められるよう体験コーナー（途上国で実際に使用している道具を使った水汲みやナッツつぶし等）やカルタ作りを実施した。途上国の子どもたちのために今後取り組めることをグループで話し合い発表した。また、保護者を対象に保護者向けプログラムを実施し、国際協力への理解を促進し、日常で子どもと一緒に取り組める国際協力について意見交換を行った。

両日とも「NGO相談員コーナー」を設け質問に答えた。NGO相談員コーナーには、この仕事を選んだ理由、大変なことは何か、やりがいとは何か、途上国に行って困ることは何か等の質問が子どもから寄せられた。ある保護者からは小学校で国際協力の話をしてほしいとの相談が寄せられた。

7. 所感：

参加した子どもたちが体験コーナーやグループワークを通して主体的に途上国の子どもたちを取り巻く課題について学びを深めてくれた。発表では全員が自分の言葉で感じたことやこれからの生活で実行していきたいことを伝えてくれた。その姿に保護者からも大きな反響があった。小学生を対象とする場合、途上国の子どもに思いを馳せることができるよう疑似体験やグループワークを中心としたプログラムが有効であると感じた。1日のふり返しシートでも、グローバルな視野やともに生きる価値観、助け合う姿勢を育むことにつながるのではないかと感じられた。

イベント実施に当たって中高生がボランティアとして協力してくれたが、彼らが活躍する姿が小学生にも保護者にも今後の身近なモデルとして良い印象をもたらしていた。保護者向けプログラムでは、ユースプログラムに参加する中学生の保護者が子どもの国際協力への関心をどのようにサポートしてきたかの経験談を語り良い意見交換ができたと思う。何人かの保護者からは、小学生の国際協力への参加機会をもっと増やしてほしいとの要望の声が寄せられた。

8. 別添（写真）



参加した子どもたち



水汲み体験



アフリカの生活道具で疑似体験



グループごとに全員で発表



大きな写真紙芝居



中高生ボランティアによるサポート